

あしどり



第 105 号

2020 年 8 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



今年、2020年3月中旬に会員の方から団地へ繋がる道路の橋周辺にチョウゲンボウのつがいが出て、交尾をしているから観察へ行きませんかとお誘いがあり、見に行くことにしました。そこは県道と団地を繋ぐ大きな橋で下には水田が広がっ

ています。その水田を毎日散歩されている地元の方がチョウゲンボウのつがい仲良く狩りをしているのを微笑ましく観察されていたそうです。そして何回も交尾をしているのを見て連絡をいただきました。

交尾の確認

3月20日、案内されたところへ見に行くと橋桁や電柱につがいとまっているのを確認。しばらく静かに観察していると最初は警戒していたものの、私達が遠くへ移動すると安心したのか交尾を始めました。1時間ほど見ていましたが、2度も交尾を観察できました。これは橋の中の隙間で営巣するかもしれないし、雛も見られれば嬉しいねと話しながら歩いていると気になるものが目に付きました。それは工事予告の看板で、いつから始まるかは書かれていませんでしたが年末終了とだけ記載されています。皆で営巣時期に始まらなければいいねと話しながらその日は帰りました。



交尾するチョウゲンボウのつがい

目次

チョウゲンボウの巣立ち	2
表紙の言葉	2
滋賀、岐阜、三重、愛知各県における	
近年のカワウ個体数変化	4
編集部よりお知らせ	8
津市海岸におけるシロチドリの繁殖 2020年	9
海岸協定締結	9
全国鳥類繁殖分布調査 ～最終年の状況と課題～	10
木曾岬干拓地のさらなる開発計画と	
三重県によるモニタリング調査について	12
わたしの野鳥ノートから その2	12
鈴鹿青少年の森の野鳥	13
山の鳥 一大台ヶ原の魅力	14
畑仕事と野鳥	16
事務局だより	17
事務局からのお願い	17
野鳥記録	18
探鳥会予告 (9月-11月)	21
探鳥会報告 (2020年4月~2020年6月)	22
編集後記	24

表紙の言葉

メジロの巣立ち

津市 石原 宏

住宅団地の一角、小さな手づくりの我が家の庭です。新型コロナウイルスで騒がしい5月4日のことです。新芽で茂った一本のヤブツバキの剪定をしようとしたところ、突然メジロの騒ぎ声。この時期すぐに営巣しているのでは・・・と思いました。

数十年も住んでいて初めてのことです。この日から室内からスコープでの観察の始まりです。すでに3羽のヒナがいて親鳥がさかんに餌を運んでいました、そして、5月10日の朝、突然の巣立ちでした。

よほど、我が家の庭が気に入ってくれて、安全安心と思ってくれたのだと感激です。

残っている巣と巣立ちの時の写真を参考に描いてみました。

工事の準備

1か月ほどたったころ地元で観察されている方から連絡があり、橋の隙間で営巣して雛が生まれた様だとのことでした。しかし、悪い事に心配していた工事が連休明けに始まると予告看板が設置され、関係者が準備しているからどうしようと言う相談でした。その日はもう夕方です工事関係者に連絡することもできなかったので、取り敢えず発注者の三重県四日市建設事務所へ巣の保護と繁殖への配慮を求めるメールを送り、翌朝電話をしました。担当者も状況がつかめていなかったため、建設会社の責任者と相談し改めて連絡しますと言う事でした。その後、私も他の会員の方達と様子を見に営巣場所へ向かいました。

営巣の状況

4月28日、営巣場所の橋へ到着して巣を探すと、ある隙間にたくさん糞が付いており、双眼鏡で確認すると奥に座っている雌がいました。写真を撮ってみると、まだ産毛の雛もいました。何羽いるかは分かりませんが、巣立ちまでは当分かかる事が分かります。その日の夕方に四日市建設事務所と建設会社の担当者で状況を確認しながら配慮していただく場所を相談して了解をいただきました。これでまずは一安心です。



雛に餌を持ってきたチョウゲンボウ雌

連休中は工事もなく、親も忙しそうに子育てをしていました。まず雄が狩りを終えると大きな声で鳴き、巣の雌へと合図を送ります。雌は出てきて雄から餌を受け取ると獲物の毛や羽根をむしり雛が食べやすい状態にて運びます。確認できた餌はネズミ、トカゲ、カエル、スズメ、カワラヒワ、ツバメなどでした。最初は雌が巣の中で小さくちぎって順番に雛へ与えていました。数日すると雛も驚くスピードで成長し、大きくなった雛には獲物をそのまま投げ入れ自分で食べさせます。遅く生まれた雛には親がちぎって平等に与えている様でした。5月の連休が終わる頃に雛はみんな産毛が抜け始めていました。



餌のカワラヒワを運ぶチョウゲンボウ雄

工事の開始

5月7日に、いよいよ工事が始まりました。すると打ち合わせ通り行くはずが巣の目の前まで足場が組まれ様としており、地元で観察されていた方がビックリして、このままでは営巣放棄されて雛が育たないのではと心配して私のところへ連絡してきてくれました。案の定、親鳥は巣の真下に作業員がいるため、警戒して巣へ近づくのをお断りしています。それでも人がいない時を見計らって巣へ飛び込み餌を与えていました。私も夕方に見に行くとその様な状況が続いていたため、作業員の方に頼み巣の周辺にあまり近づかない様に依頼し、鳥からなるべく距離を取ってもらって、事なきを得ました。やはり鳥の習性を良く知っている人と一般の人では距離感が違うのだと痛感する出来事でした。その後、もう一度関係者と擦り合わせをして十分に配慮していただくことができました。

巣立ちの時

関係者に配慮していただいたお陰で、親鳥はまだ警戒しつつも順調に餌運びを続け、雛も立派な姿へと成長しました。5月24日には巣の中で大きくなった雛5羽が羽ばたきの練習を始め抜けた産毛がたくさん舞っていました。そして身を乗り出して餌を貰えるのを待っています。やがて親が入って来ると我先にと餌へ飛び付きます。満腹になると興味深げに外を見ながら各々羽ばたきの練習をしていました。巣立ちはもう目の前です。そして5月27日早朝に次々と飛び立って行き、午前中には全ての雛が巣立ちを迎え、橋の工事用足場などへ移り終えました。

しばらく雛は足場や橋脚で親が餌を持って来てくれるのを待っており、初めて見る周辺の景色を楽しむかの様に眺めていました。



無事に巣立った雛 撮影：岡崎 かおり

最後に

雛達は最初工事用の足場から離れるのもおっかなびっくりでしたが、徐々に周辺の民家の屋根や電柱に移り飛ぶ練習を始めました。まだ親からの給餌に頼っていますが、そのうち自ら狩りを始めなければなりません。今回は工事が行われると言うアクシデントはありましたが、地元で観察されていた方や当会とは別に発注者へ保護を要請していただいた地区の自治会、工事関係者の協力もあり、無事巣立ちすることができました。



飛ぶ練習で足場にぶつかる幼鳥

滋賀、岐阜、三重、愛知各県における近年のカワウ個体数変化



津市 平井 正志

はじめに

カワウは1970年代までは比較的数の少ない鳥であった(福田ら 2002)。愛知県知多半島のカワウコロニー、鶺鴒の山は1934年に国の天然記念物に指定された。鶺鴒の山の個体数は1980年代より徐々に増加した。この頃、琵琶湖でもカワウの数が増加している(石田ら 2000)。著者は「しろちどり 84号」に三重県内のカワウコロニーの状況について概説した(平井 2015)。ここでは三重、滋賀、岐阜、および愛知の各県から、カワウ個体数の情報を得て、解析する。

データの収集と結果の表示

滋賀、岐阜、三重、愛知の4県のカワウの個体数調査の結果、および駆除数を県の担当者の協力を得て集めた。一部は県のホームページからデータを得た。また、三重県紀伊長島赤野島のカワウについては環境省の事業に基づく、平成29年度紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策業務報告書(著者不詳 2018)から得た。各県から得られたカワウ生息数、駆除数をグラフで示す。横軸は年ではなく年度である。各県で概ね、3月、7月、12月の3期に生息数が計測されているが、計測月のズレや欠測

などがあり、同一月の調査結果を表示することが難しい。それぞれ、グラフに表示した数値の観察月は県ごとに異なる。

滋賀県:各年度5月の個体数とその年度の駆除数が提供され、それらをグラフにした。

岐阜県:各年度12月のものを集計した。一部1月のデータを入れた。今度ダム(御嵩町)、岩屋ダム(下呂市)、および船附保護区(大垣市・養老町・輪之内町にまたがる)の生息数も示す。

三重県:三重県では2015年度から3月のみの1回の調査になったので、3月のデータをグラフで示した。ただし、紀北町紀伊長島赤野島のデータは加えず、別図に示した。

三重県紀北町紀伊長島赤野島:グラフは12月の罫(ねぐら)入り数を示す。12月に2回以上計測している場合には最大値を取った。12月の最大値がその年度の最大値であった場合が多いが、別の月に最大値が記録されている場合には▲で表示した。

愛知県:各年度12月あるいは11月の値をグラフ化した。全県の生息数、弥富野鳥園、知多半島鶺鴒の山の生息数を表した。

カワウ個体数の増減 各県での個体数の増減

滋賀県では琵琶湖で、カワウが増え、2008年には4万羽近くに達した。琵琶湖での漁業被害が深刻になり、大掛かりな駆除を2006年から始めた。従来の猟友会などアマチュアの猟師ではなく、職業射撃手が空気銃で撃つ、効率の良い方法で、駆除した。図1に示すように駆除数は膨大で、ほぼ、生息数と同数を駆除している。生息数は2010年から急激に減り、現在では6,000羽から7,000羽で推移している。ただ、近年は駆除にも関わらず、減少が目立たない。

岐阜県のカワウは愛知や滋賀に比べ個体数が少ない。2005年には全県で約3,300羽であったが、以降減少した。2005年以前には内陸の岩屋ダム、今度ダムなどでも多くのカワウが見られたが、現在では県南部、揖斐川と牧田川の合流地点近くの船附保護区にほぼ限定される。近年ではそれに加え、同じく県南部で三重県、愛知県とまたがる千本松原にも集中している。



カワウ

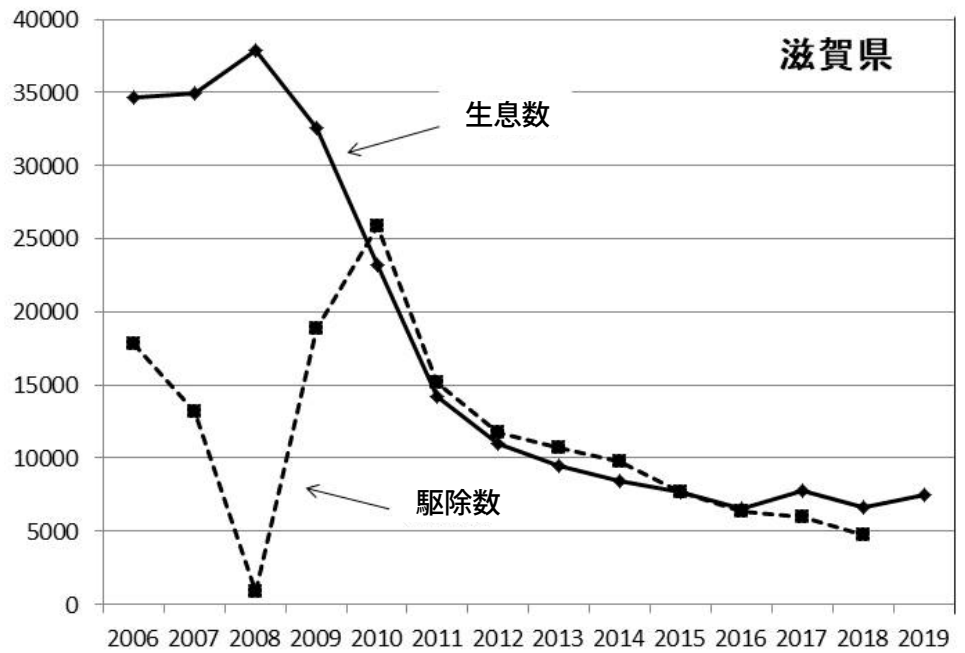


図1：滋賀県でのカワウの個体数変化

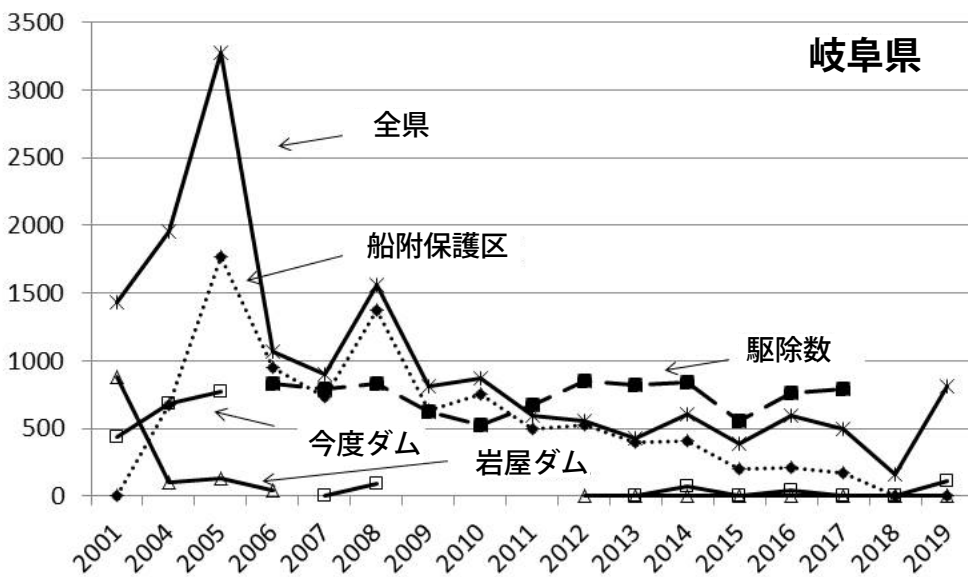


図2：岐阜県でのカワウの個体数変化

三重県でのカワウ個体数を図に示す。ただし、紀北町紀伊長島の赤野島の個体数は差し引いている。2009年には8,000羽を越えるカワウが観察された。しかし、その後減少を続け、今回2020年3月の調査では約2,000羽であった。減少は全県的である。上記の赤野島での個体数変化は、環境省が紀伊長島鳥獣保護区の植生保全を目的とした事業の中で、調べ、かつ、カワウ駆除を行っている。図3に示すように、駆除数は観察された個体数に比べてわ

ずかであったが、個体数は減少し、現在では500羽以下となっている。

愛知県では県内のカワウ生息数の大半（平均75%、最低でも60%）が弥富野鳥園、および知多半島の鶴の山で観察された。また、県東部渥美半島の田原、あるいは初立池でも相当数のカワウが生息した時期があった。2009年までは増加傾向にあり、全県で30,000羽以上を記録している。ピーク時は2008年2009年であり、その後減少傾向にある。しかし、弥富野鳥園では減少は緩やかで2015年でも10,000羽以上を維持していた。しかし、その後、2019年には減少したが、鶴の山では逆に増えた。この2コロナ一問でのカワウの移動が考えられる。グラフは12月の調査結果であるが、2020年3月では野鳥園、鶴の山合計で15,183羽であり、減少は顕著ではなかった。

4県での増減をまとめると、カワウは2000年以降各地で増加しており、2005年から2009年に各地でピークとなり、その後は急激に減少している。ただ、愛知での減少はかなり緩やかであった。

なぜ、カワウの個体数がこのように変化したのか？第一に想定されるのは餌資源の増減であろう。しかし、滋賀県のカワウは琵琶湖、岐阜県のそれは木曾三川とその支流、三重県のカワウは伊勢湾、愛知県の場合は伊勢湾および三河湾、赤野島のカワウは熊野灘と別々の魚類資源を餌としている。また、その資源には淡水魚と海水魚が含まれる。これらの地域の魚類資源が同じように変化しているとは考

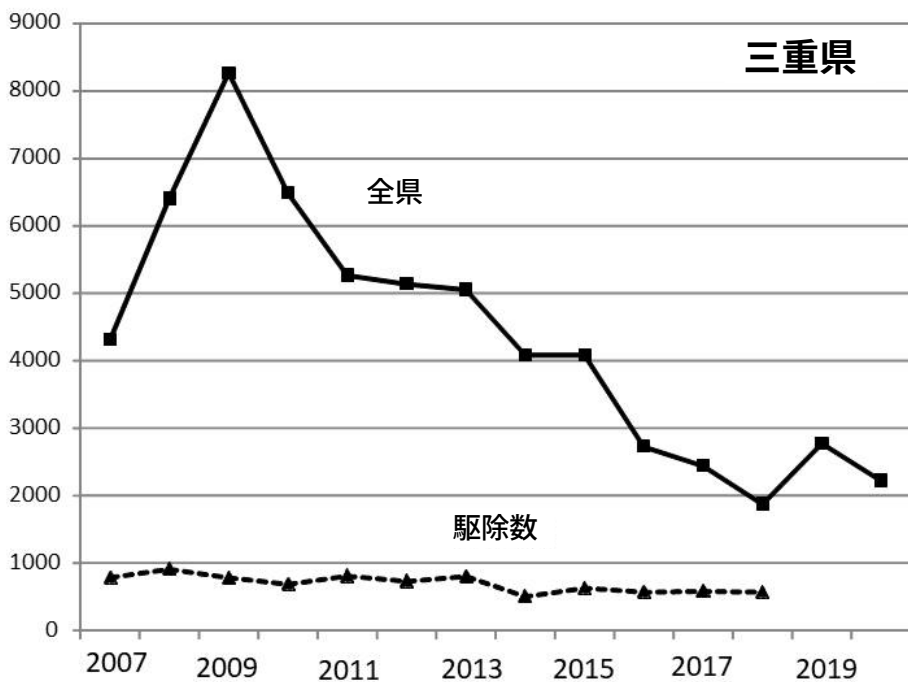


図3：三重県におけるカワウ個体数変化

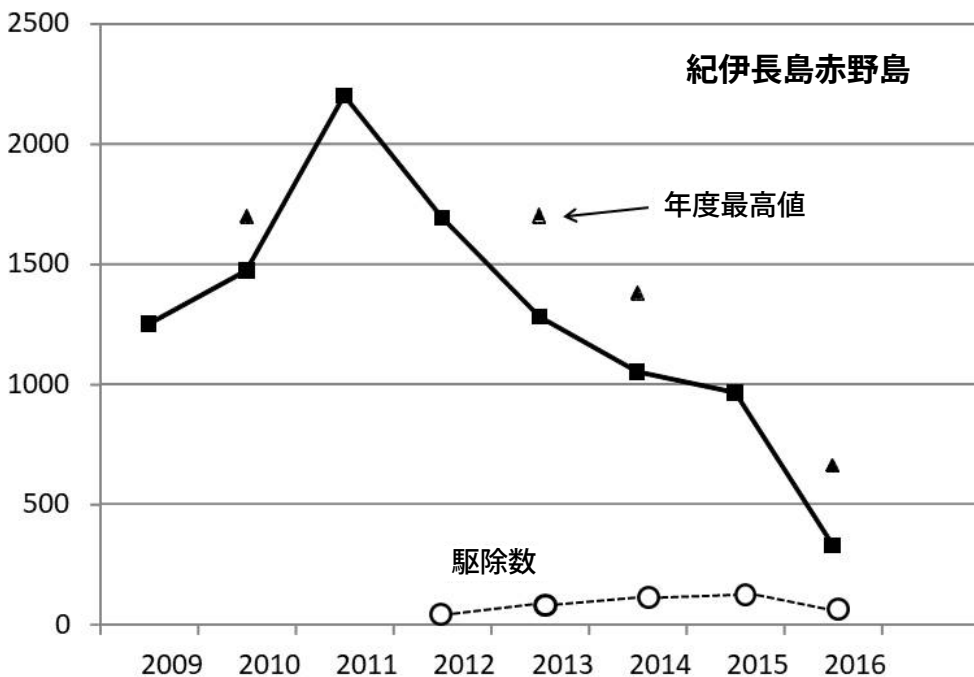


図4：紀伊長島赤野島におけるカワウ個体数変化

個体数増加の要因

なぜ、カワウの個体数がこのように変化したのか？第一に想定されるのは餌資源の増減であろう。しかし、滋賀県のカワウは琵琶湖、岐阜県のそれは木曾三川とその支流、三重県のカワウは伊勢湾、愛知県の場合は伊勢湾および三河湾、赤野島のカワウは熊野灘と別々の魚類資源を餌としている。また、その資源には淡水魚と海水魚が含まれる。これらの地域の魚類資源が同じように変化しているとは考

えにくい。

カワウの場合は集団繁殖であり、ねぐらも集団である。適切なねぐらやコロニーの確保は生息、繁殖に大きな影響を持つ。しかし、この点でも各県、個々のねぐら、コロニーの条件は様々であり、このような類似の増減を説明することは難しい。

福田ら（2002）は1970年代までのカワウの減少が狩猟圧によるものと推定している。1923年から1947年までで、年間約5,000羽（一部ウミウを含む）が狩猟などで捕獲されていた。当時のカワウの個体数を考えればそうしたような狩猟圧であったと推定し、また、それ以外に統計に残らない、駐留米兵による狩猟もあったと推定している。

この時代は強毒性の農薬が使われた時代であり、捕食性のカワウにその影響が出た可能性も否定できない。

琵琶湖では1979年に竹生島で20－30羽との記録がある程度であったがその後増加している（石田ら2000）。1980年代、琵琶湖はカワウにとって、未利用開拓地であったわけで、竹生島という絶好のコロニーが確保でき、急激に増加したのであろう。同じ時期に愛知県鶉の山でも増えているし、三重で

もコロニーが観察されるようになった。これら琵琶湖以外での増加の原因は不明であるが、狩猟者の高齢化、きびしい猟銃規制による、狩猟圧の低下も考えられる。また、琵琶湖で増加した個体の流入も考えられる。

ピーク時からの個体数減少の要因

人為的駆除は琵琶湖でかなり多く、滋賀県での減少のかなりを説明できるであろう。また、岐阜県でも生息数とほぼ同数の個体を駆除しており、人為的な駆除が果たして役割は大きい。しかし、愛知、三重では駆除数は生息数に比較してごく少なく、到底減少を説明できない。赤野島の減少も駆除以外の自然減があると考えられている（著者不詳2017）。愛知での減少は穏やかである。

三重県のカワウは夏と冬で定期的な変動があり、冬は南方へ移動していると考えられる（平井2015）。カワウの飛翔力が強く、この4県間では頻繁に行き来していると考えられる。琵琶湖で行われている駆除がこの愛知、三重のカワウの減少に寄与している可能性は高い。また、石垣池は道路建設のため、環境が大幅に悪化した。しかしそれ以外の要因、伊勢湾における漁業資源の増減が三重および愛

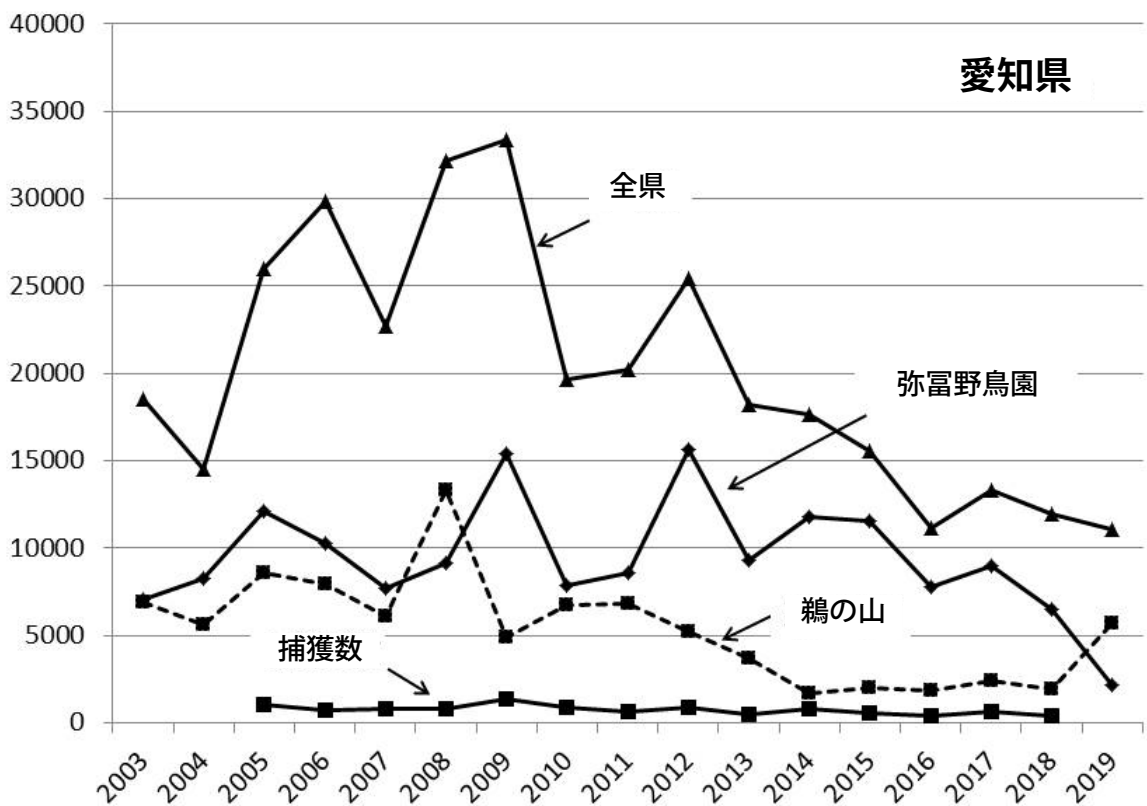


図5：愛知県におけるカワウ個体数の変化



図6：三重及び近県のカワウの
主なコロニー

知のカワウの減少のひとつの要因である可能性も否定できない。

しかし、愛知県での減少は当初、緩やかであり、とりわけ、弥富野鳥園では2015年までほぼ一定の個体数が、維持されてきた。なぜなのか不明である。

しかし、コロニーが野鳥観察施設という特殊事情があり、カワウの繁殖、ねぐらとして好適な条件があったと考えられる。

近年は琵琶湖での駆除も5,000羽内外となっている。琵琶湖では個体数そのものが減っているため、現状以上の駆除は望めない。愛知、岐阜、三重3県での駆除も狩猟者の高齢化を考えれば、駆除数が今後、さらに減少する可能性がある。このまま推移するとカワウの個体数が再び、増加する可能性は捨てきれない。

参考文献

石田 朗（年次不詳）愛知県のカワウの生息状況の変化

https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort5/effort5-3d/joukyu/kawau_2.pdf 2020/6/10 閲覧

石田 朗、松沢友紀、亀田佳代子、成末雅恵（2000）日本におけるカワウの増加と被害一地域別・問題別の概況と今後の課題 — Strix 18:1-28.

加藤 ななえ（年次不詳）カワウの生態、被害への対応

<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort5/effort5-3d/syokyu/kawau.pdf> 2020/6/11 閲覧

著者不詳（2018）平成29年度紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策業務報告書，中部地方環境事務所
平井正志（2015）三重県カワウコロニーと紀伊長島赤野島カワウ駆除問題 しろちどり84号:1-4.
福田道雄、成末雅恵、加藤七枝（2002）日本におけるカワウの生息状況の変遷。日本鳥学会誌 51:4-11.

編集部よりお知らせ

今回、新型コロナウイルス対応により、探鳥会が開かれず、会員相互の交流が疎くなったので、会報の発行間隔を縮めました。そのため、連載「シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化」はお休みします。次回をご期待ください。

原稿募集

編集部では会報「しろちどり」に掲載する原稿を募集しています。

「ひとり探鳥」は探鳥会報告の形式と同じ形式で掲載しますので、探鳥者名、日時、場所、出現した鳥名、コメントをお寄せください。むろん写真もOKです。探鳥会が平常通りに行われていても「ひとり探鳥」は掲載しますので奮ってご投稿ください。

「写真」も随時募集します。複数枚の組写真もOKです。簡単なコメントを付けてください。また「イラスト」も随時募集しています。（編集部）

津市海岸におけるシロチドリの繁殖 2020年



津市 平井 正志

今年、2020年の繁殖期に津市の海岸ではシロチドリが非常に少なく、昨年繁殖に成功している白塚海岸でも4月に成鳥3個体が観察された以降、成鳥もヒナも観察されていません。また、これまで、繁殖の実績のある田中川河口右岸から白塚海岸にかけての豊津浦でも成鳥すら観察できませんでした。町屋浦、弁天樋門付近では成鳥1羽が観察されましたが、繁殖個体では無さそうでした。安濃川河口の砂州ではシロチドリのヒナ1羽が6月4日に観察

され、細々とではあるが、繁殖していることが確認されました。なお、香良洲海岸も一度調査しましたが、シロチドリ成鳥すら観察できませんでした（表参照）。

観察者：三重大学生物資源学研究科 準准教授 塚田森生、三重県みどり共生推進課 和田彰之、妻藤李白、白塚の浜を愛する会 西口恵子、日本野鳥の会三重、安藤宣朗、平井正志。

津市海岸におけるシロチドリ観察(2020年)

		シロチドリ		観察者	備考
		成鳥	ヒナ		
2020/4/17	白塚海岸	3		和田・妻藤	
2020/5/1	白塚海岸	0		和田・妻藤	
2020/5/22	安濃川河口砂州	0		塚田	コアジサシ抱卵、注1
2020/5/22	白塚海岸	0		平井	
	田中川河口右岸砂浜	0		平井	
	町屋浦	1		平井	繁殖個体では無さそう
2020/5/26	白塚海岸	0		和田・安藤・西口	
2020/6/1	安濃川河口砂州	2		安藤	抱卵ではない模様
2020/6/4	安濃川河口砂州	2	1	平井	
2020/6/22	香良洲海岸	0		平井	

注1：他に、スズガモ、コアジサシ、シロチドリ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、ハマシギ



海岸協定締結

三重大学の塚田森生准教授（資源循環学専攻）が安濃川砂州でコアジサシが抱卵しているのを発見したことがきっかけで、県みどり共生推進課が動き、日本野鳥の会三重、三重大学生物資源学研究科、津市、および三重県の4者が海岸で繁殖する鳥の保護のための協定「三重生物多様性パートナーシップ協定」を本年、2020年6月10日結びました（協定は6月10日から2021年3月31日まで）。これに基づき、同川左岸河口砂州に保護のため、立ち入りを自粛するよう呼びかける看板が6月18日、4者で設置されました。

（平井 正志）



看板の設置作業 安濃川河口にて

全国鳥類繁殖分布調査 ～最終年の状況と課題～



四日市市（全国鳥類繁殖分布調査 三重のとりまとめ担当） 三曾田 明

しろちどり第 87 号からお知らせしてきた「全国鳥類繁殖分布調査 (調査期間 2016 年～ 2020 年)」は、いよいよ最終年となりました。三重県内のルートセンサス (既に決められているルートでの調査) は昨年、既に完了して、現在はそれを補完するための「随時調査」という情報を集めている状況です。

表 1 に三重県内のどこにでもいる鳥 (厳密には、どこにでもいて繁殖していると思われる鳥) の調査結果をまとめました。どこにでもいる鳥なので、なんらかの記号でほぼ全てが埋め尽くされるはずですが、実際、ウグイスは姿が見えなくても大きな声でさえするので全てに○がついています。その他の鳥もおおむね埋まっているので、調査としては三重の全域をカバーできているようです。

比較的観察のしやすいサギ類について、全国鳥類繁殖分布調査の前回 (1997-2002 年) の調査結果を図 1 に、今回 (2016-2020 年) の調査結果を図 2 に地図上で表してみました。アオサギは繁殖域を大きく広げているようです。ダイサギも幾分か繁殖域を広げているように見えます。一方、チュウサギ、アマサギ、ゴイサギ、コサギは多少の増減はあるもののあまり変化があるようには感じられません。

大型のサギが増え、小型のサギはあまり変化がないということのようです。これは全国的な調査でも同じ様な傾向があり、特にアオサギではそれが顕著です。図 3 は全国鳥類繁殖分布調査の主催団体であるバードリサーチより提供してもらったアオサギの分布図 (調査の途中状況です) で、それが分かると思います。サギの仲間は身近で観察しやすく、近年の増

減についてもなんとなく感じているものがあると思います。みなさんの感覚と調査結果はあっているでしょうか。

さて、まだこの調査はまだ終わっていません。表 2 を見てください。まだ、生息および繁殖情報が漏れているのではないかとと思われる鳥をピックアップしてみました。特にハヤブサは三重では繁殖していないことになっているのですが本当でしょうか。・・・ということで引き続き、「随時調査」にご協力をお願いします。

4 月に当会より「新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、探鳥会、総会を中止します」という案内を郵送していますが、これと一緒に「これまでの結果報告と観察記録提供 (補完用) のお願い (最終)」という用紙を同封しました。この用紙の裏が繁殖記録用紙となっていますので、そちらに記入して郵送していただくか、登録済の方は当会のホームページの「繁殖調査報告サイト」から情報提供をお願いします。

図 3 現時点のアオサギ分布の分布図 (バードリサーチ提供)

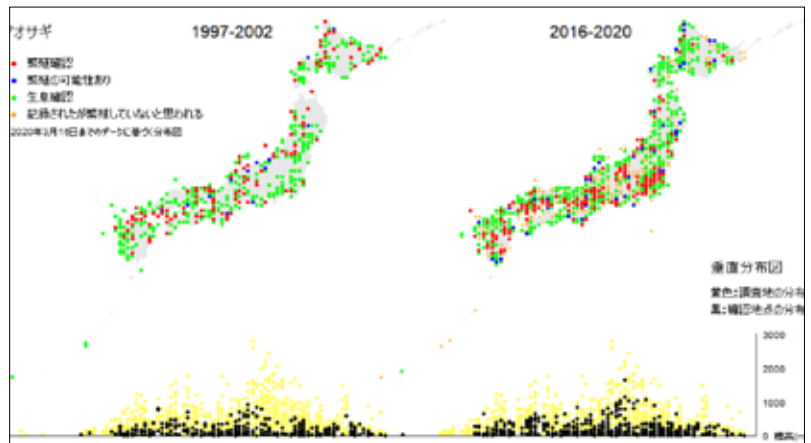


表 1 どこにでもいる鳥

【凡例】 ◎繁殖確認 ○繁殖の可能性あり △生息確認

1/5 万地形図名	彦根東	津島	御在所山	桑名	名古屋南	水口	亀山	四日市	上野	津西部	津東部	名張	二本木	松阪	答志	高見山	丹生	伊勢	鳥羽	大台ヶ原	長島	賢浦	波切	尾鷲	鳥勝浦	木本①	木本②	阿田和	十津川	新宮
ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カワラヒワ	△	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スズメ	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツバメ	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス	○	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤマガラ	○	△	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

図1 前回(1997-2002年)の調査結果

【凡例】 ●繁殖確認 ●繁殖の可能性あり ●生息確認

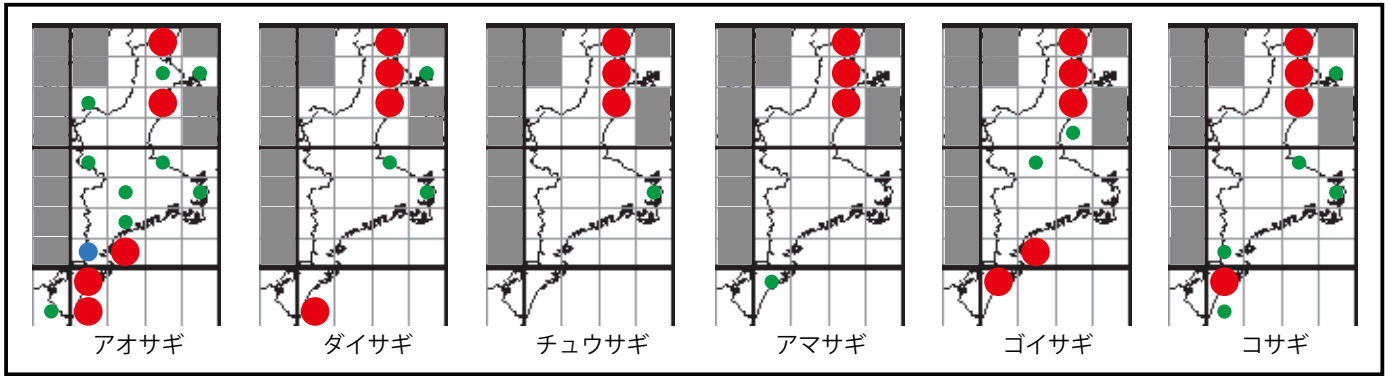


図2 今回(2016-2020年)の調査結果

【凡例】 ●繁殖確認 ●繁殖の可能性あり ●生息確認

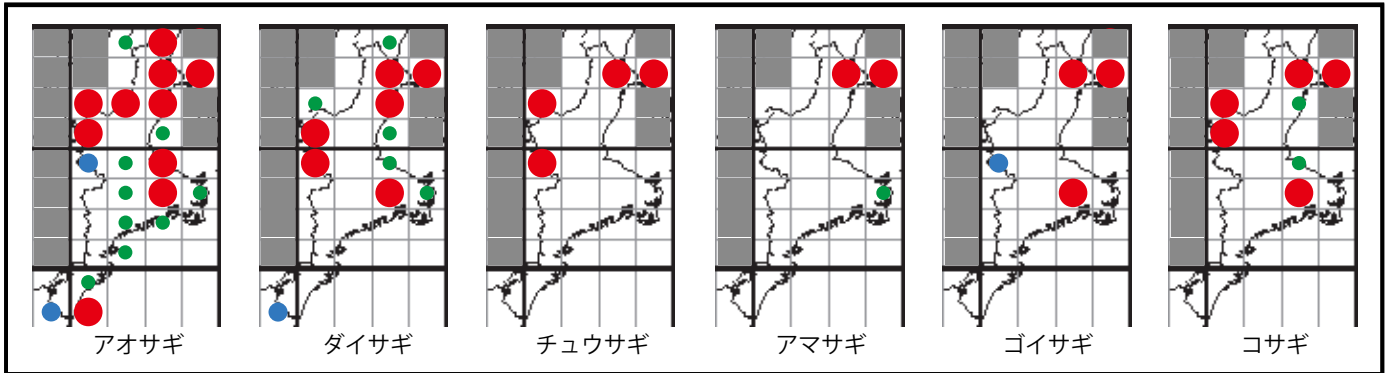


表2 データを補完したい鳥

【凡例】 ◎繁殖確認 ○繁殖の可能性あり △生息確認

1/5万 地形図名	彦根東	津島	御在所山	桑名	名古屋南	水口	亀山	四日市	上野	津西部	津東部	名張	二本木	松阪	答志	高見山	丹生	伊勢	鳥羽	大台ヶ原	長島	賢浦	波切	尾鷲	島勝浦	木本①	木本②	阿田和	十津川	新宮	
イカルチドリ		△	△	○			○			○							○			△											
イソヒヨドリ						◎	○	○		◎	◎	○	◎		○		○	◎	◎	○			◎		○	○		◎	○	○	
オオタカ		◎		△	◎			◎				○	◎																		
カイツブリ				◎	△		○			◎	◎		○	◎																	
カルガモ		△		◎	◎	○		○	△	△			△	○					△		△		△			△		○		△	
カワウ		◎		◎	◎			◎	◎		△	◎		◎	△			◎		△	△	△	△			△				◎	
カワセミ	△	△		△	○		○	◎		◎	△	○	△		△			△		△	△	△	△			△			△		
カワラバト(ドバト)	△	△		○	△			◎			△			○	△			○	△												
ケリ		○		◎	◎	△	◎	◎	○	◎	△		○	◎				◎													
コシアカツバメ					◎		◎	◎	○			◎	◎																		
コジュケイ		○	○	△			○	○				○	○	○			○			○	△	○			○					○	
サシバ	△	△					◎	◎	○	○		○	△																		
セグロセキレイ	△	△		△	○	△	○	◎	△			○	○	◎		◎	○	△	△	△	△	△			△		○		○	△	
ソウシチョウ			○		○					○						○				○					○		○			○	
チョウゲンボウ		△		△				◎	○																						
ツツドリ							○	○			○	○	○			○	○		○	○	○			○					○	○	
ハクセキレイ		○		◎	○		◎	△	○	○	○	○	△	○	△			○	○	○	△	△			◎		○		○		
ハヤブサ																															
ヒバリ		○		◎	○		○	○		○	○	◎	○	○					△												
フクロウ			◎	△		◎		◎		△				◎			○		○						○						
ムクドリ		◎		◎	◎	△	△	◎	△	◎	△	○	◎	○				○	△					○		◎					
メジロ	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○		○	◎	◎	○		○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	
モズ		◎		◎	○	○	◎			○		◎	◎	◎					△												
ヤブサメ			△			◎	○	○	○	△		○		○																○	○

木曾岬干拓地のさらなる開発計画と 三重県によるモニタリング調査について

(保護部)

しろちどり第104号に掲載した抗議文に対する三重県からの回答は、「メガソーラー施設からの観察は境界線より200m離れているので問題はない。」と回答がありました。それ以外の返答はなく、電話で確認したところ「繁殖期間にかつての営巣地の近くを通ることやかつての営巣地の近くで車から降りてゲートの開閉をすることについては環境省発行の『チュウヒの保護の進め方』には何も記載のないことである。」とのことでした。

観察地点はメガソーラー施設に200m以上入ったところでした。この点については私たちの間違いもあったので三重県に謝罪しました。今年は保全区内でチュウヒの繁殖活動が観察されています。それら以外では繁殖はしていないという判断に基づいての調査であることが三重県から聞くモニタリング業者(国際航業)の姿勢のようです。

三重県の担当者には、以下の3点について回答を4月からお願いしているのですが、現時点で回答がありません。質問は下記のような内容です。

- 2006年の木曾岬干拓地の環境影響評価書では保全全区で3つがい繁殖可能であるとしているが現在1つがいなし0つがいしか繁殖できていない理由は
- 木曾岬干拓地環境保全検討委員会によって決められた条件となった理由は
- 保全区におけるエサ環境は評価書で書かれた内容になっているのか、数量的データを示してほしい

現時点では、三重県が環境影響評価を行うかどうかは決まっていますが、3つがい繁殖していたものが、開発が進むに連れて1つがい繁殖することができるかできないかという状態になってきていること、三重県は3つがい繁殖可能であると言っていたことなどからさらなる開発は認めることができません。

三重県からの回答など新しいことが分かり次第報告します。



わたしの野鳥ノートから その2

鈴鹿市 山岡 みのり

3月7日(土) 両ヶ池で観察

見られた鳥

- ・スズメ・ハブトガラス
 - ・ハシボソガラス・アオサギ
 - ・カンムリカイツブリ
 - ・ダイサギ・ハクセキレイ
 - ・ミコアイサ オカヨシガモ
 - ・キンクロハジロ
 - ・ヒドリガモ・ホシハジロ
 - ・カワウ・トビ・オオバン
- 計15種

スズメ

木の枝にたくさんとまってチュンチュン鳴いていた。

ハブトガラス・ハシボソガラス

木の枝や電線にとまって鳴いていた。みんなて話をしているみたかった。

アオサギ



木の枝にとまっていた。白ぼいのが最初はビニールがびくびく見えたら

カンムリカイツブリ

水の上で休んでいた。今日は、数羽親鳥が来た。もう夏羽だった。



夏羽

鈴鹿青少年の森の野鳥



鈴鹿市 寺尾 日那・幸太朗

私たちがよく行くフィールドは鈴鹿青少年の森です。この公園の一番の人気者は、小さな人工池にいるカワセミです。運が良ければ、狩りをしているところを見ることができます。ヤゴが捕まえやすいようでこの前はヤゴばかり食べていました。大きな池にはミコアイサが来るそうです。それから、今年の春はコゲラが子育てをしていました。親鳥が巣にエサを運ぶ様子を見ることができました。また、巣立ったヒナたちが1本の木にセミのようにとまっていたいました。

渡りの時期には、思わぬ出会いがあります。1日だけでしたが、遊歩道沿いの木立でオオルリを観察できたり、数日間キビタキやサンショウクイ、アカハラを見ることができました。身近な場所に珍しい野鳥がいたので嬉しかったし、公園が渡り鳥の大事な中継地点になっていると実感しました。

また、身近な野鳥の面白い行動を観察することもできます。メジロが丸まった葉っぱを足で掴んで飛んできたと思ったら、枝にとまって中から虫を出して食べていました。



あまり鳥の姿を見ることができない日があっても、コジュケイの大きな鳴き声を聞くことができたり、いろいろな植物や昆虫を観察できたりします。ぜひ、散歩をしがてら、近くの公園でバードウォッチングを楽しんでみてください。



写真は著者による

山の鳥 —大台ヶ原の魅力—



津市 林 益夫

大台ヶ原の魅力は自然のスケールがデカイことにある。私がコマドリに魅せられ一番最初に撮影したのもこの地だった。当時フィルム時代で暗い場所を好むコマドリは思うように撮れず何度も通った。

夏鳥・留鳥は現在でも種類に変化ないが、樹木の立ち枯れやシカが増えすぎ雑木類の下枯れが目立ち鳥の数がかなり減少している。以前はコノハズクも来ていたが現在声も聴かない。



探鳥できる代表種：コマドリ・オオルリ・コルリ・キビタキ・アカショウビン・カラ類・ツグミ類・キバシリ・キクイタダキ・ミソサザイ・カケス・など

大台ヶ原（西大台奈良県側）の探鳥期間は大台ヶ原ドライブウェイ開通期間4/下旬～11/下旬（冬季閉鎖）に限定される。探鳥地は山岳道路入口（旧茶店）から頂上大駐車場周辺一帯で大駐車場から入るシオカラ谷吊橋方面は道が険しいわりに昔ほど鳥は多くない。（写真は著者撮影、撮影地はすべて大台ヶ原山頂付近）



上：コルリ
下：ミソサザイ



上：コマドリ
中：カケス
下：ゴジュウカラ



春から初夏は忙しい。冬を越したサヤエンドウ、グリーンピース、スナップエンドウ、ソラマメ、タマネギ、ニンニク、ワケギなどの管理・収穫、3月の終わりから5月初めまでは毎朝タケノコ掘り、3月に菌を植え付けたシイタケの原木の刈伏せと本伏せ、春から順に植えたジャガイモ、ズッキーニ、サトイモ、ヤマイモ、サツマイモ、ラッカセイ、エダマメ、インゲンマメ、ブロッコリー、キュウリ、ナス、スイカ、トマト、トウモロコシ、マクワウリなど次から次へと仕事がある。稲作もしているので、畦だけでなく、農道や水路周辺の草刈りにも時間がとられる。



現在の我が家の畑 柵設置中

我が家で耕作している畑は、6年前までは水田であった。以前はさらに山側に畑や果樹園があった。その周辺の畑などは耕作放棄され、イノシシやシカなどの被害が増加してきて多くは原野になった。かつての我が家の畑や果樹園も耕作ができなくなり、原野になってしまった。現在の畑は、ため池がすぐ上にあり、猛暑でも十分の水を供給できる。イノシシ、シカやサルなどの被害を防ぐため、柵を設置して上部には侵入防止の電気(微弱な高圧電流で冬のピリッとくる静電気程度)を流している。

この原稿を書いている今も昼間なのに花火の音がする。サルがどこかの畑を荒らし、それに気づいた人が花火で脅している。我が家で飼っているニワトリが、最近イタチに襲われた。死んだニワトリを埋めたら、夜にキツネに掘られて死骸が持ち去れた。定年を迎え、以前の勤めの手伝いなどを3年ほどしていたが、自治会の仕事や農業関係の仕事をたくさん担当するようになり、以前の勤めの手伝いはやめた。時間はできたが、栽培する作物を増やしたりしたため、かえって忙しくなってしまった。定年後に

始めたマコモタケ栽培も規模を縮小して作業時間を少なくした。

新型コロナウイルスのニュースを携帯ラジオで聞くと、どこか違う世界の話のように思ってしまう。人と接することがないわけではない。畑に接する県道に軽トラックを止めて地域の人たちが声をかけてくる。「サトイモには7月にアイビー化成を施すとよい」「トマトの側芽は簡単に挿し木できるよ」といろいろ教えてもらえる。相手とは何メートルも離れている。まわりには他に誰もいない三疎の世界だ。

しかし、こんな田舎でも環境は変わってきている。夏の作業は空調服が必須になりつつある。イノシシの被害は豚熱の影響で少し減ったようだ。シカは揖斐川を桑名市多度町側から岐阜県海津市側へ泳いで渡っていると聞いた。キツネやタヌキも増えているようだが、今まで見なかったアライグマも普通に見ることができる。

自然は常に変わっていくようだ。人間が大きな影響を与えているのだろう。



冬場に訪れるオシドリ

ため池にはカワセミやキセキレイがやってくる。冬にはオシドリも見ることができる。何十年と暮らしてきた場所なのに、今までほとんど聞いたこと見たことのない野鳥の声がし、姿が観察できる。冬の空にはオオタカやノスリが飛んでいる。ミサゴも飛ぶことがある。夜や明け方にジュウイチ、ツツドリ、フクロウなどが鳴く。アオバト、アカショウビン、サンコウチョウなども繁殖期に鳴いている。絶え間なく鳴き続けるウグイスとけたたましい声を出しながら上空を飛んでいくホトトギス、時々聞こえるクロツグミの声。色づいたミニトマトを収穫しながら、野鳥の声や姿に畑仕事の疲れが癒されている。

事務局だより

活動の記録 (2020年5月～6月)

2020年

- 5/ 1～18 会報誌「しろちどり第104号」編集・校正作業
- 5/12 (仮称)南伊勢ウインドファーム 計画段階環境配慮書を閲覧
- 5/24 「(仮称)南伊勢ウインドファーム 計画段階環境配慮書に係る環境保全の見地からの意見」を提出
- 5/28 三重県四日市建設事務所へ猛禽類保護について報告・お礼
- 6/ 1 会報誌「しろちどり第104号」発行・発送作業
- 6/10 県・津市・三重大学・本会の4者で「みえ生物多様性パートナーシップ協定～鳥類繁殖場の保全に関する協定～」を締結
- 6/18 安濃川河口に看板を設置(当会、三重県、三重大学、津市)
- 6/22 (仮称)ウインドパーク布引北風力発電事業に係る環境影響評価準備書を閲覧
- 6/26 (仮称)ウインドパーク布引北風力発電事業に係る環境影響評価準備書を閲覧
- 6/30 (仮称)青山高原風力発電所リプレイス事業に係る計画段階環境配慮書を閲覧

事務局からのお願い

傷病鳥について

事務局には、よく「ヒナを拾った! 傷ついた野鳥がいる! どうしたらいい?」という電話がかかります。実際、目の前に傷ついた野鳥やヒナがいたら慌ててしまいますが、ここでは冷静に考えてみましょう。野鳥はペットと異なり自然の中で、毎日「食う・食われる」という厳しい現実を生きています。弱った野鳥は他の鳥獣のエサとなり、命の連鎖によって生態系ができ上がっています。このことから、三重県は原則として「救護は行わない」方針ですが、絶滅危惧種(国・県による指定種)で人との関わりにより負傷した個体などに限って救護を行うとしています。では、傷ついた野鳥やヒナを発見した場合どうすればいいのか、下記を参考にして行動してください。

【傷ついた野鳥を見つけたとき】

- 傷ついた野鳥は素手で触らず、そっとしておくか、近くの茂みなどに戻すようにしてください。
- 野鳥はペットと違い捕獲されることで強いストレスを受けます。むやみに追いかけないようにしましょう。
- 絶滅危惧種(国・県による指定種)である可能性がある場合は、県の農林事務所(森林・林業室)または各市町の自然環境保護担当部署へ連絡をお願いします。

【ヒナを見つけたとき】

- ヒナを拾わないで! 絶対に持ち帰らないでください。
- まだ羽が十分でないヒナが落ちていたら、近くの巣に戻してください。
- 巣に戻しても、また落ちる場合はダニなどが発生しているおそれがあります。
- 地上で子育てをする野鳥もいます。ヒナを見つけても、そのままにしてすぐ退散しましょう。
- うまく飛べないヒナは、羽ばたきの練習中であり、必ずそばに親がいます。すぐその場を離れましょう。またネコやイヌがいて心配な場合は、近くの木に止ませましょう。

※ 野鳥は法律により許可なく捕獲や飼育することは禁止されています。

野鳥記録 (2020年05月01日から2020年07月04日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所 (三重県)	雄/雌/などの区別	記録報告者名	脚注
イイジマムシクイ	1	4月27日	いなべ市	成鳥	山神 勝治	1
ノジコ	1	5月2日	両が池		鈴木 健真	2
オオルリ	1	5月1日	鈴鹿青少年の森	雄	寺尾 幸太朗	3
サンショウクイ	1	5月1日	鈴鹿青少年の森		寺尾 幸太朗	4
オオチドリ	1	4月20日	志摩市	雄	安藤 宣朗	5
キビタキ	1	5月1日	鈴鹿青少年の森	雄	寺尾 幸太朗	6
ホトトギス	1	5月17日	津市安濃中央公園裏		平井 正志	7
オバシギ	1	4月26日	四日市市鈴鹿川派川河口	成鳥夏羽	安藤 宣朗	8
アオバト	2	5月24日	垂坂公園		今西 純一	9
ブッポウソウ	1	5月20日	志摩市浜島町檜山路		濱屋 勝則	10
ホトトギス	2	5月24日	桑名市	雄・雌各1羽	山神 勝治	11
シマアジ	1	4月30日	桑名市	雄	山神 勝治	12
アジサシ	100	5月4日	四日市市		山神 勝治	13
ハチクマ	10	5月12日	桑名市	雄・雌	山神 勝治	14
アマツバメ	30	5月17日	桑名市	不明	山神 勝治	15
マヒワ	30	5月2日	いなべ市		山神 勝治	16
ミヤコドリ	40	6月4日	松阪市雲出川河口砂州		平井 正志	17
ヒレンジャク	9	4月29日	長良川河口堰		今西 純一	18
コムクドリ	18	4月29日	長良川河口堰		今西 純一	19
ミヤコドリ	24	6月18日	津市 安濃川河口		平井 正志	20
フクロウ	3	5月23日	四日市市内	成鳥1、幼鳥2	匿名	21
オオコノハズク	2	6月12日	津市一志町地内		前田 聡	22

脚注

- こんな鳥を三重の山中で見られて感動しました。
同定：①頭央線が無い ②アイリングがハッキリしている。 ③下面が白い ④眉斑が細い
⑤下嘴が先端まで橙黄色である。 本件は、鳥君及び山階鳥類研究所に鑑定を依頼し
イイジマムシクイであるとの回答をいただきました。
- 聞きなれない地鳴きが。しばらく待っていると木の上にとまったので撮影するとノジコでした。
この辺りも通過しているんですね。
- 渡りの季節になり、夏鳥を探しに行ったら、オオルリがいました。
- 特徴的な鳴き声でしたので上空を見ると、飛んでいました。次の日にも鳴き声を聞くことができました。
- 観察は、森口道夫氏 西村 泉さん経由安藤宣朗が代理投稿
- 初認です。きれいな声でさえずっていました。一週間後もいました。写真は5月9日に撮影したものです。
- ホトトギス初鳴き＝忍び音
- この場所では、稀に観る
- 2か所から同時にさえずりが聞こえてきたので2羽以上いるようです。いつも声だけでなかなか姿は
見せてもらえません。
- 約6年ぶりに全く同じ枝に留まっている姿を見つけました、半日滞在していたそうです。
- 元気な鳴き声で飛びまわっています。
- もう来ないだろうと思っていたが念のため覗いてみたら居たのでびっくりしました。
- 沖合の網に100羽程の群れがとまっていました。

14. 毎年、色型・中間色型・淡色型等が飛んでくるので観察も楽しいです。
15. 何時も4月初めに見かけるのに今年は、1か月も遅かったです。
16. まだ繁殖地に行かずに残っていたのでびっくりしました。
18. 1つの木に同時にとまっていたのが9羽であとは飛び回っており数を確認できませんでした。翌週はコロナの影響で駐車場が閉鎖されてしまい滞在を確認できませんでした。
19. 18羽まで数えましたがもっといたと思います。
20. 越夏するのか？
21. 幼鳥が飛んで移動できるようになった。
22. 2羽の距離は約5mで、親は雛の行動をじっと見守っていた。



イイジママシクイ：山神 勝治



ノジコ：鈴木 健真



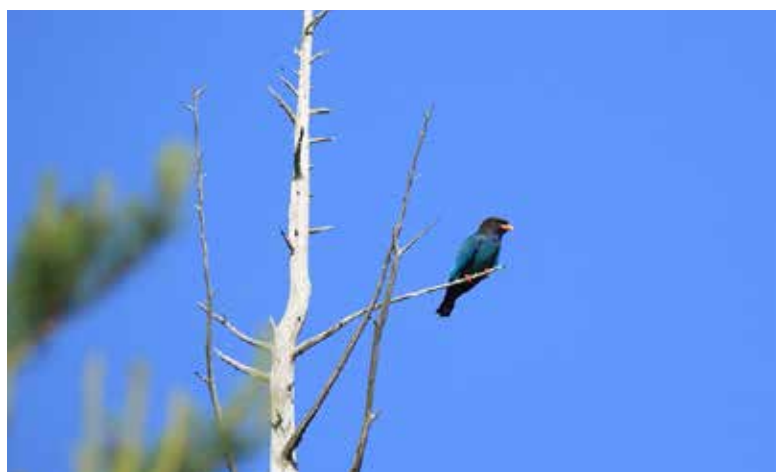
キビタキ：寺尾 幸太郎



オオチドリ：森口 道夫



オオコノハズク：前田 聡



ブッポウソウ：濱屋 勝則



コムクドリ：今西 純一

探鳥会予告 (9月-11月)



重要なお知らせ 9月から探鳥会を再開する予定でいます。しかし、新型コロナウイルスの拡大状況によっては、参加人数の制限、事前申し込み制、あるいは中止など、変更されることがあります。参加される方は開催の有無などをリーダー、事務局、あるいは当会ホームページでご確認ください。開催直前に変更される場合には十分に情報が伝わらないこともあります。ご了承ください。

● 9月8日(火) 海蔵川で鳥見ing!

(バードウォッチング) その1 小雨決行!

開催地/四日市市西坂部町 海蔵川沿い

集合/ 9:45 海蔵川代官橋 北詰

解散/ 12:00 集合地

● 9月12日(土) 五主探鳥会 小雨決行!

開催地/松阪市 五主海岸

集合/ 9:30 雲出川右岸堤防河口 五主海岸コーナー

解散/ 11:30 現地

● 9月22日(火) 庭田山タカ渡り探鳥会

開催地/津市 庭田山頂公園

集合/ 10:00 庭田山頂公園駐車場

解散/ 13:00 集合地

● 9月26日(土) 答志島タカ渡り探鳥会

※会員と家族・入会予定者 限定

開催地/鳥羽市 答志島(定期船で渡ります)

集合/ 7:30 鳥羽市佐田浜マリンターミナル

(8時発 答志行きに乗船)

解散/ 11:30 現地

備考/参加予約必要 小坂里香 090-6097-3283

● 9月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

集合/ 9:00 愛知県 弥富野鳥園

解散/ 12:00 集合地

● 9月27日(日) みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
小雨決行!

開催地/奈良県宇陀郡御杖村菅野 みつえ高原牧場

集合/ 8:00 近鉄名張駅 西口前

解散/ 12:00 現地

備考/参加予約必要 南一朗 090-6594-0383

田中豊成 090-4088-3164

参加費は無料ですが、乗り合わせの場合 1人300円を、車の提供者さんに支払います。

● 10月3日(土) 香良洲海岸探鳥会

開催地/津市香良洲町 香良洲海岸

集合/ 13:00 香良洲公園駐車場

解散/ 15:00 集合地

● 10月3日(土) 相津峠タカ渡り探鳥会

開催地/松阪市飯南町 相津峠

集合/ 8:30 道の駅「茶倉」駐車場

解散/ 11:30 現地(相津峠)

● 10月4日(日) 伊勢タカ渡り探鳥会

開催地/伊勢市 やすらぎ公園

集合/ 7:00 やすらぎ公園納骨堂前

解散/ 11:00 集合地

● 10月10日(土) 海蔵川で鳥見ing!

(バードウォッチング) その4 小雨決行!

内容は、9月8日と同じです。

● 10月10日(土) 市木川河口及び水田探鳥会
今年の市木川探鳥会は中止します。

● 10月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、9月27日と同じです。

● 11月8日(日) 中村川探鳥会 小雨決行!

開催地/松阪市嬉野一志町 中村川中流域

集合/ 9:30 ファミリーマート

(旧サークルK) 前の駐車場(「中川駅北1」信号近く)

解散/ 11:30 現地

● 11月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、9月27日と同じです。

● 11月22日(日) 安濃川河口探鳥会

開催地/津市高洲町 安濃川河口

集合/ 13:00 安濃川河口 右岸の先端 東屋

解散/ 15:00 現地

● 11月23日(月・祝) 海蔵川で鳥見ing!

(バードウォッチング) その5 小雨決行!

内容は、9月8日と同じです。

● 11月28日(土) 三滝川かんさつ会

開催地/三重郡菰野町 三滝川河川敷

集合/ 9:30 大羽根グラウンド駐車場

解散/ 12:00 集合地

臨時探鳥会のお知らせ

● 12月6日(日) 木曾三川公園合同探鳥会

愛知県支部、岐阜県支部、遠州支部の4県で合同探鳥会を開くことが決まりました。

事前参加申し込みでコロナ対策を施しての実施となります。詳細は、次号「しろちどり106号」にてお知らせします。お楽しみに。



●一人海蔵川で鳥見 ing!(バードウォッチング)

2020年4月11日(土) 9:30～11:30

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者1名(会員1名)

カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、ゴイサギ、ダイサギ、ケリ、コチドリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計23種

コロナウイルスの影響で6月までの探鳥会がすべて中止になってしまいましたが、野鳥たちにはどこ吹く風で春の訪れを全身で謳歌していました。そこで三密を避けるため一人で海蔵川に野鳥を観察した様子をお伝えします。

もう4月も半ばなのにのんびりと川面を泳ぐキンクロハジロに出迎えられ始まりました。空にはツバメが飛び交うなか、ピュ、ピュと鳴き声を響かせてコガモがゆっくりと泳いでいました。この時期ならではの冬鳥と夏鳥のランデブーでした。

この状況下ですが、自然は関係なく移り変わっていきます。次回こそ通常通りの探鳥会ができたらと思いながら帰路に着きました。

●鈴鹿川派川探鳥会

2020年5月5日(火・祝) 9:30～11:30

四日市市楠町南五味塚 鈴鹿川派川河口 右岸

安藤宣朗 参加者1名(会員1名)

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、シロチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計27種

新型コロナウイルス緊急事態の中、寂しくリーダー単独探鳥会となった。今日は子供の日とあって日頃家庭内で過ごしている子供たちと共に親子連れの潮干狩り客で浜辺は賑やかであった。お陰様で潮の引いた干潟にはシギ・チドリの姿が少なかった。コロナウイルスの早期終結を願うばかりです。キンクロハジロ、スズガモなど7種のカモ類やお目当てのシギ・チドリ類、キアシシギ、メダイチドリ、チュウシャクシギなど4種類、その他サギ類、ツバメやオオヨシキリなど合計27種類を観察した。

●赤目四十八滝探鳥会

2020年5月13日(日) 8:30～12:00

名張市赤目町 赤目四十八滝

田中豊成 参加者1名(会員1名)

キジバト、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ウグイス、ミソサザイ、カワガラス、オオルリ、キセキレイ、カワラヒワ 計11種

開催日の5月10日は、コロナの為赤目四十八滝は閉鎖だったので、解禁が開けた13日に行いました。観察者は田中一人でした。

ミソサザイは数箇所を確認され、途中にある東屋の屋根の裏側にはコケでできた巣がありました。オオルリの声が聞かれました。

●金剛川河口探鳥会

2020年5月15日(金) 9:30～11:00

松阪市高須町 金剛川河口

中村洋子 小野新子 参加者5名(会員5名)

キジ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、ダイゼン、メダイチドリ、ミヤコドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計31種

カンムリカイツブリが夏羽でとてもきれいだった。いつもは堤防の下の石積の上にキアシシギ等がたくさんいるのに、今日は10±羽しかいない、どうしたのでしょうか・・・。

ハマシギは見あたらない。ダイゼンは松名瀬の浜に1羽のみ。ミヤコドリ12羽は、砂浜で休んでいた。カモ類の種類は少ないです。スズガモは大町側に300位残っていました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2020年5月24日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者3名(会員3名)

それぞれ別々に観察

キジ(1)、カルガモ(10)、キジバト(11)、カワウ(30)、アオサギ(7)、ダイサギ(2)、コサギ(2)、ケリ(7)、コチドリ(4)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(15)、ツバメ(100)、ウグイス(5)、

オオヨシキリ (50)、セッカ (20)、ムクドリ (50)、スズメ (30)、カワラヒワ (3)、ホオジロ (2)、ドバト (4) 計 21 種

探鳥会は中止のため、今回も 3 名が別々に車で回りました。終了後、3 人はそれぞれ社会的距離以上に離れて種名・個体数の確認をしました。

今月は猛禽類が観察できず、種類も少ない結果となりました。

●三滝川かんさつ会

2020 年 5 月 30 日 (土) 9:30 ~ 12:00

三重郡菰野町 三滝川河川敷

矢田栄史 参加者 1 名 (会員 1 名)

キジ、キジバト、イカルチドリ、コチドリ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ 計 20 種

暑い日でした。スズメ、カワラヒワ、セグロセキレイの 3 種は巣立ちびなも確認した。オオヨシキリとホトトギスもいるはずであるが、声・姿ともになし。菰野町役場のイソヒヨドリは、巣材をくわえて庁舎のすきまに入った。営巣している様子である。

●伊勢おはらい町ツバメ探鳥会

2020 年 6 月 6 日 (土) 8:30 ~ 9:30

伊勢市今在家町 内宮おはらい町

西村 泉 参加者 1 名 (会員 1 名)

キジバト、コゲラ、アオゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、イソヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計 14 種

新型コロナウイルス感染拡大の影響で探鳥会が中止になったため、一人探鳥会を行った。

緊急事態宣言が解除された後だったが、おはらい町周辺の人出はいつもの半分以下。まだ休業している店もあってツバメの営巣に支障があるのではないかと心配しつつ現地を訪れると、例年とほとんど変わらない様子にほっと胸をなで下した。赤福本店では、お店の人によると 1 番子のツバメは巣立ったとのこと。入口の軒先に作られた巣には、親ツバメが 2 回目の子育てをするために来ていた。五十鈴川沿いを歩くと周りが静かなので、対岸の森からアオゲラやカワラヒワの鳴き声がよく聞こえた。

●足見川探鳥会

2020 年 6 月 22 日 (月) 10:20 ~ 12:15

四日市市山田町 足見川

笹間俊秋 参加者 1 名 (会員 1 名)

カルガモ、キジバト、カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ホトトギス、コチドリ、サシバ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、キビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ホオジロ 計 23 種

6 月 21 日当日に、探鳥会中止を知らずに愛知県から来た人がいました。調査は月曜日に実施。天気は曇っていましたが、時々小雨が降っていました。水田にはツバメやコシアカツバメが飛び、ダイサギ、アオサギ、チュウサギ、アマサギなどサギ類がそろって餌を捕っていました。サシバが餌を捕って帰って行くのを確認できました。調査中では 23 種が確認できました。

調査の後、サシバの観察を続けていると杉林からサンコウチョウの鳴き声が聞こえてきました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2020 年 6 月 27 日 (土) 9:00 ~ 12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者 3 名 (会員 3 名)

キジ (1)、カルガモ (4)、ホシハジロ (1)、キジバト (1)、カワウ (50)、アオサギ (6)、ダイサギ (6)、コチドリ (4)、ミサゴ (2)、トビ (1)、ハシボソガラス (100)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (10)、ツバメ (200)、ウグイス (2)、オオヨシキリ (5)、セッカ (20)、ムクドリ (3)、スズメ (20)、セグロセキレイ (1)、カワラヒワ (3)、ホオジロ (2)、ドバト (24) 計 23 種

5 月に続き、探鳥会は中止のため、今回も 3 名が別々に車で回りました。

当初の探鳥会の実施日は翌日だったのですが、大雨が予想されたため、前日の 27 日に実施しました。雨は降らなかったのですが、暑い日で出現した鳥も少なかったです。



ヤブサメ：西村 四郎

『ひとり探鳥』 奥香肌湖 (蓮ダム)

場所：奥香肌湖 (蓮ダム) 上流～宮ノ谷林道
日時：2020年5月3日 6:00～10:00 晴れ
西村四郎

キジバト、カワウ、カワセミ、ヤマセミ、カケス、ハシボトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、ミソサザイ、カワガラス、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、ホオジロ、ソウシチョウ 計20種

ゴールデンウィークの一日、ダム上流の林道に出かけました。この時期、海岸でのシギチも魅力ですが、最近では近くの山に行くほうが多いです。

奥香肌湖ではヤマセミが迎えてくれました。その後は上流に向かい、一般的な渓谷の夏鳥はほぼ出現してくれました。道路は整備されているので、所所で車を止めて、のんびり歩くスタイルです。ヤブサメをじっくり観察できたのと、ソウシチョウのさえざりがずっと聞こえていたのが印象に残りました。

『ひとり探鳥』 松阪市海岸

場所：松阪市海岸 (金剛川以南)
日時：2020年6月14日 2:20～15:00 薄曇り
吉崎幸一

キジ、マガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、ササゴイ、アオサギ、ダイサギ、トビ、カワセミ、ハシボトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計21種

梅雨の中休みの薄曇りの午後、松阪の海岸に探鳥に訪れた。海岸のシギチ類はみられず、少し寂しい感じがした。癒してくれたのはホオジロの元気なさえざりとヒバリの飛翔であった。昨年梅雨空の中でサカナを捕食しているところに出会って以来であったが、ササゴイが堤防脇の木の枝に2羽並んで止まっていた。近づくと枝の陰に隠れたが、しばらくじっとしていると再び姿を見せてくれた。アオサギの巣でひなが育っているのを確認して帰路に就いた。



キジ イラスト：山岡 みのり

編集後記

去年の宿泊探鳥会は立山の室堂平へ行ったが、天気良すぎて気温が上がりライチョウは残念ながら出てきてくれなかった。今年はリベンジしようと意気込んでいたが、3月からの外出自粛要請で6月中旬まで県外へは出られなかった。ようやく自粛解禁となり、乗鞍の豊平へ見に行こうと計画を立てていたが、梅雨明けどころか岐阜県で豪雨災害が発生して機会を逸している。仕方が無いので地元の里山にてサシバの巣立ちを、じっくり観察している。その詳細は次号で報告する予定である。楽しみにしてください。

(T.S.)

しろちどり 105号

2020年8月5日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：石原 宏

カット：山岡 みのり・平井 正志

編集：平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所：日本野鳥の会三重

平井 正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市